

# 戦争させない・しない世界と日本をつくるために

～攻められたらどうするではなく、攻められない平和のための準備を！～

川原茂雄（札幌学院大学人文学部教授）

## ○ロシアのウクライナ侵攻以後の世界

- ・ 2022年2月24日ーロシアがウクライナに対する軍事進攻を開始した
- ・ これは加盟国に対する「武力における威嚇又は武力の行使」を禁じた国連憲章に違反する行為
- ・ 国連安全保障理事会はロシア軍の即時撤退を求める決議案を採択したが、常任理事国のロシアは反対
- ・ 欧米諸国はロシアに対して厳しい経済制裁を加えているが、独裁者プーチンの蛮行を止められない
- ・ 世界中でロシアのウクライナ侵攻に抗議し反戦を訴える動きの広がりーここ北海道でも！
- ・ 私たちは「ロシアのウクライナ侵攻以後の世界」を生きている
- ・ それは「戦争が起きる世界」ーもともとそのような世界だったのだが、、、
- ・ 連日、テレビやネットを通じて映し出される「戦場となったウクライナの光景」を見て
- ・ もしかすると自分たちの国でも起こり得るかもしれない「光景」として感じ始めた
- ・ これまでの「戦場の光景」ー途上国やイスラム圏など
- ・ どこか遠い国、別の世界の出来事だと思っていた？
- ・ 自分たちは先進国・西側の国に住んでいるのであり、そこは集団安全保障のパワーバランスによって抑止力が働いているので、かんたんに他国から攻められたり戦争が起きることはないと思っていた？
- ・ 「ロシアのウクライナ侵攻以後の世界」＝「自分たちの国が攻められ、戦争が起きるかもしれない世界」

## ○日本が他国から攻められたらどうする？

- ・ にわかに叫ばれる「日本が他国から攻められたらどうする？」
- ・ そのような事態に備えるためにはー軍事力の増強、敵基地攻撃能力、核共有、、、
- ・ やっぱり憲法を変えなければならない？ー第9条、自衛隊の明記、国防軍化、緊急事態条項
- ・ 他国から攻められないために軍事力をさらに増強すべきであるー抑止としての軍事力増強論
- ・ 他国より強い軍事力を持てば、相手はビビって攻めてくることはない（だろう）ーホントに？
- ・ 「安全保障のジレンマ」ー軍事力を増強すればするほど、戦争が起きるリスクが高まる
- ・ 相手が刃物を出す→刃物で対抗する→鉄砲を出す→鉄砲で対抗する→機関銃を出す→機関銃で対抗する→大砲を出す→大砲で対抗する→ミサイルを出す→ミサイルで対抗する→核兵器を出す→核兵器で対抗する→？
- ・ 果てしなき軍事力の増強（軍拡競争）ー「鏡に映る敵（自分）」と対峙するようなもの

### ○平和主義・第9条では日本を守れない？

- ・そして今、声高に言われているのが、「平和憲法、第9条で日本を守れるのか？」ということ
- ・日本国憲法・第9条で「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使」を放棄し、戦力の不保持と交戦権を否認していること、さらに前文で「平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意」していることについて
- ・「そんなことで、もし他国から攻められたら、日本を守ることができるのか？」という、いわゆる「お花畑論」を主張する人たち
- ・上智大学の中野晃一先生に言わせると「お花畑論」は「素朴な平和主義者」ということになるが、それを批判する人たちは、先生に言わせると「素朴な武力主義者」ということになる
- ・「素朴な武力主義者」たちが言うところの「平和憲法、第9条では日本は守られない」「他国が攻めてきたら、日本を守るのは武力・軍事力なのだから、憲法を改正して、自衛隊を軍隊にして、軍事力を増強し、核兵器も持つべきだ」という主張
- ・すでに一部の政治家たちだけでなく、メディアやネット上でも、いろいろなかたちで流布されている
- ・これらの言説に対して、私たちは冷静に理性的に合理的・論理的に反論していかなければならない

### ○本当に日本は「攻められる」のか？

- ・連日のメディアで報道されるウクライナの戦場の様子－民間人への理不尽な攻撃・殺戮
- ・日本に広がる「もしかすると日本も他国から攻められる（侵略される）かもしれない」という空気
- ・それに乗じて叫ばれる「日本が攻められたら、どうする？攻められる前に、軍事力を増強しろ！」
- ・ここで落ち着いて冷静に考えなければならないのは、「本当に日本が攻められることが起きるのか？」
- ・いったい、どこの国が日本を攻める（侵略する）のか？なんのために攻める（侵略する）のか？
- ・ロシア？－北方領土の問題、中国？－尖閣諸島の問題、北朝鮮？－ミサイルの発射？
- ・これまでの人類の歴史・世界の歴史を振り返ると、「戦争」が起きる時には必ず理由と原因とプロセスがある
- ・今回のロシアのウクライナへの侵攻（侵略）には、理由と原因とプロセスがあった
- ・最大の原因はロシアの権力者（支配者）であるプーチンが理性的・合理的な判断が出来なくなったこと
- ・いま、日本とロシア・中国・北朝鮮との間に、「戦争」が起きるかもしれない理由と原因とプロセスはあるのか？

### ○もし日本が攻められたら、軍事力で侵攻（侵略）を防ぐことができるのか？

- ・日本が攻められたら、強大な軍力で敵を攻撃して、排除するというが、、
- ・ウクライナのように隣国と陸続きではなく、四方を海で囲われている日本
- ・戦車で侵攻してきたり、上陸艇で海岸から攻めてくるということは（ほとんど）考えられない
- ・可能性の高いのは上空からのミサイル攻撃、爆撃機からの爆弾の投下など
- ・ウクライナのように陸続きの隣国へ国民が避難するということも不可能である
- ・原発や核施設にミサイル攻撃されてしまえば、一巻の終わり（The End!）
- ・日本は、「攻められたら、どうする？」ではなく、「攻められたら、終わり」なのである

### ○だったら「やられる前に、やればいい」のか？

- ・そこで出てくるのが「やられる前、やればいい」－先制攻撃、敵基地攻撃、敵の中枢攻撃？
- ・相手から攻撃される前に攻撃すること（先制攻撃）は、あきらかな軍事的侵略行為（国際法違反！）
- ・先制攻撃によって相手の軍事的能力を完全に無力化できない限り、必ず反撃（軍事的攻撃）を受ける
- ・結局は戦闘は泥沼化し、長期化していく（いまのロシア・ウクライナ、かつての日本とアメリカ）
- ・攻撃する前に攻撃されても、攻撃される前に攻撃しても、戦争が始まってしまえば果てしの無い戦闘行為が続いていってしまうことになる
- ・だから、いま私たちが考えなければならないのは「攻められたら、どうする？」ではなく、「戦争が起きないためには、どうすればいいのか？」ではないのか？

### ○戦争が起きないようにするためには、どうすればいいのか？

- ・「攻められたらどうする」と叫ぶのではなく、「攻められないように、戦争が起きないようにする」のが政治家の役割であり仕事である
- ・「戦争は外交の失敗と定義されている。攻めてきたらどうするんだという人がいるが、攻められないようにするのが日々の外交の力。それを怠っておいて軍備増強するのは本末転倒」（坂本龍一氏）

### ○暴走する無為・愚策の岸田政権

- ・国民無視の無為・愚策の岸田政権
- ・原発の再稼働・稼働延長・新增設への政策転換
- ・防衛力の増強－敵基地攻撃能力・防衛費の倍増
- ・安保関連三文書の改訂・国外への武器輸出の動き
- ・なりふりかまわず軍備拡大への道を突き進むのか？

### ○安保関連3文書の改訂を閣議決定！

- ・国の安全保障“3つの文書”の改訂を決定
- ・「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」
- ・安保3文書改定で上がる懸念
- ・日米の「盾と矛」の役割文体が変化。日本の抑止力強化で、日米一体がすすむ。
- ・敵基地攻撃能力（反撃能力）の行使要件の曖昧さ。先制攻撃となる恐れがある。
- ・自衛隊の役割拡大。装備品補充や自衛核確保が滞る実態があり、現場には戸惑いも。

### ○米軍・自衛隊の一体化が進められる！

- ・米国が攻撃される「存立危機事態」でも自衛隊の攻撃が可能となる！
- ・米国が始めた「戦争」に自衛隊が参加させられる！
- ・米軍と連携する「総合防衛ミサイル防衛（IAMMD）」の構築に自衛隊も参加
- ・これまでの自衛隊「盾」米軍「矛」体制の変質
- ・自衛隊の「攻撃部隊化」（国境を超えて他国を攻撃する？）

- ・米軍・自衛隊の一体化＝日米同盟の「現代化」？

#### ○日米首脳会談・敵基地攻撃で協力強化？

- ・防衛費をいままでの2倍増に！－アメリカから言われたからやるの？
- ・5年以内に防衛力を抜本的に強化－GDP比1%から2%へ（約11兆円！）
- ・ロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮の核・ミサイル開発、中国の台頭や台湾有事への懸念
- ・防衛費が2倍になると－世界第9位から、いっきに第3位に上昇！
- ・財源は国民への増税で賄うつもり？
- ・防衛費倍増「5兆円」あったら何ができるか？
- ・教育－児童手当の給与所得制限撤廃、大学授業料・小中の給食費無償化！
- ・年金－全員に月1万円上乘せ！医療－自己負担ほぼゼロに！消費税－2%引き下げれる！

#### ○岸田政権は「いいなり政権」！

- ・アメリカ合衆国の「いいなり」
- ・自民党保守派（旧アベ派）の「いいなり」
- ・官僚の「いいなり」
- ・財界・原子カムラの「いいなり」
- ・「聞く耳」はいったい誰のためのもの？

#### ○G7広島サミットにおける「広島ビジョン」

- ・安全が損なわれない形で核兵器のない世界の実現に向けた関与を再確認－核兵器の存在を容認？
- ・核兵器は存在する限り、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止するべきだと理解する
- ・ロシアによる核の脅威や使用は許されない。中国の透明性や対話を欠く核戦略増強を懸念
- ・国民から（特に被爆者から）批判的な声も－「核廃絶」の文言がない！「核兵器禁止条約」触れず！

#### ○2021年・核兵器禁止条約発効！

- ・批准国・地域は50に到達－条約発効！
- ・交渉参加国は129カ国－核保有国と日本などの国は参加せず
- ・なぜ日本は核兵器禁止条約に参加しないのか？
- ・アメリカの核の傘の下で「守ってもらっている」から？
- ・2022年、核兵器禁止条約締約国会議 in ウィーン　ドイツ・ノルウェーはオブザーバー参加
- ・核兵器のない世界を！ウィーン宣言を採択！

○ロシアのウクライナ侵攻後の世界において、日本が行うべきことは、「攻められたらどうする？」と言って日本国憲法の平和主義・第9条を変えて軍備を増強することではなく、民主主義・立憲主義を回復して、偏狭な価値観・世界観を持つ政治家が権力の座につかないようにするとともに、国連を中心とする国際社会における平和のルールが回復されるための動きの先頭に立つことではないでしょうか。